

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット3)

事業所番号	0190400671		
法人名	医療法人 北武会		
事業所名	グループホーム ほくとⅡ		
所在地	札幌市手稲区手稲本町3条4丁目2番5号		
自己評価作成日	令和2年9月17日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyvoCd=0190400671-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在は新型コロナウイルスの影響にて、当施設も面会の自粛や外出等の制限を行っている。当面は気分転換の回り方や身体機能の低下に留意した個別ケアが課題となっており、廊下歩行等の運動や食事の盛り付けや配膳等の家事を積極的に提供し職員と一緒に取り組むように行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市手稲区の市街地に位置し、JR手稲駅南口から徒歩圏内で、3階建ての1階と2階にある3ユニットのグループホームである。国道5号線沿いで、近隣にコンビニや飲食店があり利便性のよい地区である。建物内は、病院転用型で3階にも同法人の2ユニットのグループホームがあり、2階には渡り廊下で特別養護老人ホームが併設している。1階には多目的スペースがあり、介護予防センターなど地域の活動に開放している。ホーム内は、リビングや食堂、廊下、居室、職員休憩室など全て広くゆったりしている。法人は、医療法人だが社会福祉法人などを含めて幅広い業容展開をしている法人グループで、病院や老健施設、特養老人ホームも5ヵ所運営しており、地域への貢献度が高い。利用者は、広いリビングの大きな窓から手稲の街並みを一望しながら、ゆったりと寛いで毎日を過ごしている。認知症高齢者の複合的な支援施設として、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎月のミーティングにて理念の復唱を行い、都度意義に沿ったケアを行うよう指導している。 ・ユニット内の目立つ場所に掲示している。	事業所の理念は、事業所内に掲示しパンフレットにも掲載して、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、毎月のミーティングで理念の復唱をして、職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・月1回の町内会のゴミ拾い活動に参加している。 ・新型コロナウイルスの影響が出てくる前は居宅スペースを開放し、定期的に地域との活動もあったが現在は休止している。	町内会に加入し、清掃活動などに参加している。いつもは、施設内の多目的スペースを介護予防センターに提供し介護予防体操などを開催しているが、今年は新型コロナウイルス感染症対策で多目的スペースの開放を休止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・新型コロナウイルスの影響にて、現在は自粛している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に1回運営推進会議を開催している。自治会などからの意見や情報提供を頂いておりサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、家族や町内会役員、民生委員や地域包括支援センター担当者が参加して、定期的に開催し運営状況の報告や情報交換、意見交換などを行いサービス向上に活かしている。今年3月からは新型コロナウイルス感染症対策で、書面会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・例年は手稲区グループホーム管理者連絡会等の集まりがあり情報交換もスムーズに行っていたが、新型コロナウイルスの影響にて他所との情報共有が難しい状態。	運営推進会議に地域包括支援センター担当者が参加しており、定期的に情報交換や意見交換をしており、手稲区のグループホーム管理者連絡会にも参加するなどして連携しているが、現在は、新型コロナウイルス感染症対策で会合の自粛をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・定期的に身体拘束等適正化委員会を開催し勉強会を実施している。 ・身体拘束のマニュアルを作成し、周知している。 ・職員入職時に、オリエンテーションにて説明を行っている。	身体拘束適正化委員会を設置して、3ヶ月に1回検討会を行っている。また、指針やマニュアルを整備して、研修会を年2回定期的に行っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体拘束のマニュアルを作成し、周知している。 ・職員入職時に、オリエンテーションにて説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修等機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・未経験だが入居後も契約内容等に関して不安の声や質問が聞かれる際には、都度説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見を頂いた時には都度傾聴し、対応している。 ・玄関に意見箱を設置し、毎週確認している。	ホーム全体と利用者毎のホーム便りを毎月発行し、家族へ運営状況や生活状況を報告している。玄関に意見箱を設置しているが、家族からの意見や要望は来訪時に殆ど聞き取り運営に反映している。現在は、面会の自粛しており手紙や窓から手を振るなどに留めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月のミーティングにて意見を出してもらっている。 ・業務時間内でも随時意見や提案を聞く環境を整えるよう心掛けている。	ユニット毎に毎月会議をしている。管理者会議は、週1回行って情報の共有をしている。個人面談は、年3回定期的に実施しており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事考課にて定期的に職員との面談を実施している。各自、目標が達成できるようにアドバイスを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年に数回の外部研修受講の機会を設けている。 ・内部研修を実施し、職員間でのケアの見直しや行き方を再度周知向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・ホーム長が参加し、情報共有している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・未経験だが、事前の情報と面談でよい環境が迎えられるよう取り組んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・未経験だが、申し込みから入居までの間に来るだけご家族様から情報を収集し理解を深める様にしていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・未経験だが、ご家族様からお話を伺いながらその時必要としている支援は何かを考え、色々なサービス提供をしていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・料理の手順など、職員が教えて頂くことも多々ある。共に生活していくものと捉え、職員と入居者が助け合い生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご本人様にご家族様との生活を大切に思っているように、ご家族様と連絡を取り合い、一緒にご本人様を支えていける関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・新型コロナウイルスの影響にて現在は行えていない。収束後、改めて支援していく考えである。	地元出身の利用者が多く、交通の利便性から殆どの家族が来訪している。神社のお祭りや近隣の飲食店などに行ったりしているが、現在は、外出の自粛をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・自然に出来る人間関係の他に、職員が間に入り共通の話題の提供やレクリエーション通じた集団生活を行い、一体感が持てるように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・未経験だが、サービス終了後も気軽に訪ねて頂いたり相談を受けるなどの体制づくりをしていきたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・その都度ご本人様にお伺いし、希望や意向の把握に努めている。またケアカンファレンスを行い、職員間で個別ケアについて都度検討している。	カラオケや読書など希望を聞いたり、食べたいものを確認するなどしている。行事の時には、希望に応じてノンアルコールビールを提供しており、利用者の思いや意向を把握し対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人様、ご家族様、関係事業所などから情報提供を頂き、生活の経過などの把握に努めている。		
25		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・よく観察しアセスメントを行い職員間での情報共有を念頭に置き、一人一人が役割や生きがいを持って頂くよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人様ご家族様からの意向や、主治医ホーム内の看護師からの指示や注意点などを聞きプランに取り入れている。また、定期的カンファレンスを行い現在のニーズに合ったプランを製作している。	利用者毎の担当者が本人や家族からの意見や要望を聞き、主治医や看護師等を含め情報収集し、定期的カンファレンスを行い、現状のニーズに沿った介護計画を作成している。見直しは半年毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・状態の変化や気づき等は申し送りノートやミーティングを活用し、職員間での情報共有とケアの統一化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個別ケアの観点からご本人様の希望を聞き出し、それに答える取り組みをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・行事では地域のボランティアに依頼しがってん一座等を披露して頂いていたが、今年は新型コロナウイルスの影響にて行えていない状態。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的に往診を受けられている。特変があった際は迅速にかかりつけ医に報連相し、ご家族様とも連携を取っている。	協力医療機関の往診は月2回で、看護師は職員で常駐しており、24時間体制で適切な医療を受けられるよう支援している。歯科医や皮膚科医も往診がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師が常駐し、24時間いつでも連絡のとれる体制になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・都度、ご家族様や病院ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、帰設できる状態であれば速やかな受け入れを望んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	・随時、ご本人様やご家族様と話し合いながら病院やその他事業所へ結びつけるなどの支援を行っている。	重度化や終末期については、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、主治医の指示のもと家族と打ち合わせして、意向を確認し、主治医と連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・全ての職員ではないが、初期対応についてはどのように行動するか周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回防火訓練を行っており、会議の中でも適宜災害における対応や備蓄品の見直しを行っている。運営推進会議では地域の方からご意見を頂いている。	火災の避難訓練は、年2回消防署の指導の下、マニュアルや備蓄、備品を整備して、定期的実施している。内1回は、施設内3事業所合同で実施しており、町内会役員も緊急連絡網に明記されるなど地域との協力体制を築いている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・申し送りの際などは個人情報やプライバシーに配慮し、イニシャル呼びで職員に伝達している。また、入居者に尊重した声掛けや対応をするように、定期的にユニット会議で周知している。	人格の尊重やプライバシーについては、ユニット会議で接遇について学んでおり、声掛けや言葉使いなどに注意指導して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の会話にてご本人様の意思を確認している。また、ご本人様が自身の思いを言いやすい環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	・一人一人のペースを念頭に置き、業務が優先にならないよう個別ケアにおける支援の意味を周知している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・個々の生活習慣に合わせ対応している。 ・化粧を毎日している方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の趣向に合わせ、ふりかけや梅干し等を提供し美味しく召し上がれるように配慮している。 ・毎日の食事の準備や後片付けを役割にしている方もいる。 	食事は、副菜が外部委託でご飯と味噌汁を用意している。利用者は食事の準備や片付けを手伝っている。外食はコロナウイルス感染症対策で自粛をしており、行事食等でお弁当屋さんのお弁当の会やピザパーティー、ケーキやお菓子作りなど多彩な支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食量や水分量は記録にて把握できるようになっている。 ・水分の少ない方には好みの飲み物や食事の際の汁物にて調整を行っている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の口腔ケアや義歯消毒を行い、清潔保持に努めている。 ・協力歯科医院とも連携し往診を受けられるように取り組んでいる。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・各利用者毎に排泄チェック表を記載している。 ・排泄パターンの確認や排泄物の性状を把握し、下剤の調整や定時のトイレ誘導を行うなどの対応をしている。 	利用者毎の記録簿から排泄パターンを把握し、表情や仕草などから声掛け誘導して、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分量に気を配ったり、毎朝の朝食時にヨーグルトや牛乳を提供している。 ・適度な運動等で便秘予防に気を付けている。 		
45	17	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人様にも相談しながら、入浴時間を決めていく。 ・拒否の見られる方には誘うタイミングや声掛けの行い方に工夫して取り組んでいる。 	入浴は週2回で、利用者の体調に合わせて行っている。一番風呂を希望する方や入浴の曜日や時間なども個別の希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの生活習慣を踏まえ安心して快眠できる様な居室の環境整備を行っている。 ・落ち着かれない時は傾聴し、温かい飲み物の提供等を行っている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が周知出来る様に見やすい場所にファイルを設置し、情報共有を図っている。 ・変化の見られた際は都度主治医に相談している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・掃除やシーツ交換、食事の盛り付けや味付け、配膳等、多岐に渡り行える方が多く残存機能を残した支援を行っている。 ・新型コロナウイルスの影響にて畑仕事は行えていないが、これを機にレクの見直しを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・近くの公園までお散歩やコンビニでの買い物、行事では外食レクで近くの飲食店に皆さままで歩いた。外出や外泊を楽しみにされる方もいたが、現在は新型コロナウイルスの影響にて自粛の状態。	近隣の公園への散歩やコンビニでの買い物など日常的に支援している。外食も近隣の飲食店などへ歩いて行っていたが、現在は、新型コロナウイルス感染症対策で自粛している。	現在は、新型コロナウイルス感染症対策で自粛しているが、これからは、家族にアンケート調査をするなどして、家族と一緒に外出行事の企画を立案し、互いに協力して外出行事ができるよう期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・各利用者には預り金が存在している。現在はコロナウイルスの影響にてご本人様の外出はないが、職員が代わりに買い物してきたものを支払う形で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話所持をしている利用者もあり、時折自らご家族様に電話を掛けられる様子が聞かれる。 ・電話をしたいという希望には沿っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロアの壁紙や装飾等でイベントや季節を感じて頂いている。 ・温度や光は職員が管理し、都度対応している。	共用空間は、リビングや食堂、廊下も幅広くゆったりしている。台所は対面キッチンで、台所から利用者が見守れる。ホーム内は整理整頓され、清潔で温度管理もされており、壁には季節の飾り物など掲示され季節を感じる。リビングの窓は大きく採光が良く、居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングの食卓テーブルに自然と集まり談笑されている。 ・リビング以外でも居室でそれぞれが過ごせる空間づくりを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は慣れ親しんだ家具を自由に配置して頂き、生活習慣を継続出来るように配慮に取り組んでいる。	居室は、10畳位の広めで、クローゼットとベットが設置している。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・日々のアセスメントを共有し、スタッフが統一したケアを行えるように個々の環境づくりに取り組んでいる。		